

第一生命サラリーマン川柳コンクール
サラ川から資産形成・承継を学ぶ

第一生命保険株式会社
第一生命経済研究所

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

サラ川最新情報はこちら

特設サイトでは様々な情報を公開しています。
サラ川小冊子シリーズは Web でもご覧いただけます。
サラ川特設サイト

<https://event.dai-ichi-life.co.jp/company/senryu/index.html>



川柳、雅号は、すべて応募者の表記にしたがっているため、一部当て字等での表記で掲載しています。
この小冊子の作品の著作権は、すべて第一生命に帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。

お届けしたのは…

はじめに

サラ川^{せん}から資産形成・承継を学ぶ

「貯蓄から資産形成へ」の関心が、株価の上昇と人生100年時代の現実味とともに、働き盛り世代を中心に高まっています。過去も何度か「貯蓄から投資へ」という流れがありました。本格的な流れになっていくのでしょうか。

今年で35回目を迎えるサラ川は、1990年前後の不動産バブル・崩壊、2000年前後のITバブル・崩壊、2008年前後の米住宅バブルとリーマンショックを経験しています。サラ川は、資産形成や投資の分野においても時代を映す鏡であると同時に、失敗の反省や成功するための工夫の集大成でもあります。

その一方で、サラ川スタート当時は働き盛りだった戦後のベビーブーム生まれの団塊世代が70歳を超え、「終活・相続」や「承継」にも関心が高まっています。両親の相続の経験や「相続」が「争族」になるトラブル等を見聞きしたことが背景にあります。

今回は、人生100年時代を見据えた資産形成・承継について、サラ川の句を楽しみながら皆さんと一緒に考えたいと思います。

資産形成・承継の基本

人生100年時代を 「考える」

資産形成の目標を 「決める」

給与天引きと賢い消費で 「貯める」

「長期・積立・分散」投資で 「ふやす」

大きな失敗を 「回避する」

セカンドライフを 「楽しむ」

そして、次の世代に 「承継する」

欲しいのは 100年安心 妻の愛

愛妻家 (第33回 2019年)

70歳 オラの村では 青年部

長老A (第23回 2009年)

ゴール前 延びる定年 老い越せない

チコちゃん55歳 (第32回 2018年)

100歳へ 健康よりも お金ない

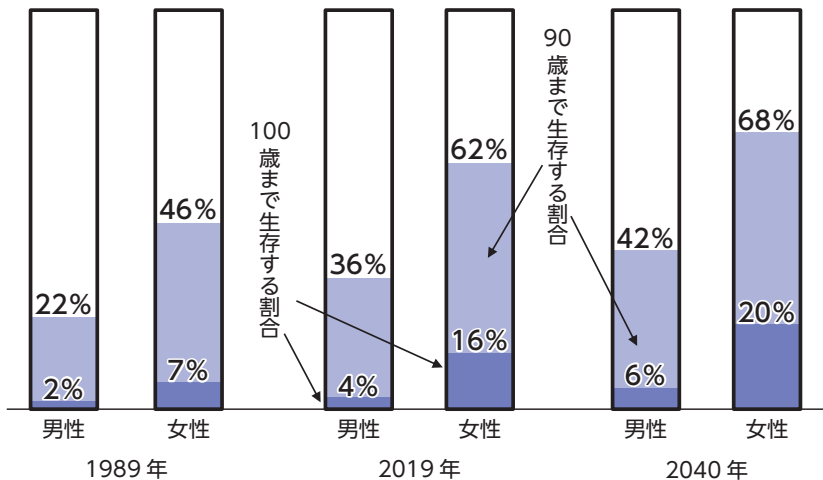
年金28号 (第32回 2018年)

年金の 元は取ったと 大往生

老行燈 (第31回 2017年)

人生100年時代の現実味

各年時点で65歳である人が、90歳・100歳まで生存する割合



出典：厚生労働省「令和2年版厚生労働白書」

人生100年時代だからお金の寿命も延ばす。

厚生労働省の推計によると、2040年に65歳（公的年金の原則開始年齢）になる男性のうち42%が90歳まで、女性のうち20%が100歳まで生存する見込みです。平均寿命は、平成の30年間に男女ともに約5歳延び、今後も持続的に延びることが見込まれます。

この前提ですと、人生100年時代は相当現実味を帯びてきます。とすれば、これからは人生100年時代を自身自身のこととして人生設計を考える必要があります。

人生設計では、「お金」、「健康」、「生きがい（つながり）」の3つの要素が重要です。つまり、

- ・ 一生涯の経済的基盤を作ること（資産寿命）
- ・ 健康な状態を長く維持すること（健康寿命）
- ・ 生きがい、社会や友人とのつながりのある生活をすること（つながり寿命）

の3つの人生資産の寿命を延ばすことです。

ここでは皆さんと人生100年時代の「お金（資産寿命の延ばし方）」について考えたいと思います。

老後にと 米寿の父が 貯金する

てる源爺 (第31回 2017年)

教育費 かけて夢見る 倍返し

あんこもち (第27回 2013年)

あつ森に ローンの返済 先越され

NOベル (第34回 2020年)

減っていく… ボーナス・年金 髪・愛情

ピュアレディ (第21回 2007年)

足りないの? そもそも無いよ 2000万

老後が心配 (第33回 2019年)

年金は いらぬ人が 制度決め

元平社員 (第19回 2005年)

人生の三大費用

子育て・教育	(幼～高⇒公立) 541万円 + 大学 (幼～高⇒私立) 1,830万円
住宅	(分譲戸建住宅) 3,933万円 (分譲マンション) 4,577万円
老後	(最低日常生活費) 約6,630万円 (ゆとりある老後生活費) 約1億830万円

「教育」は、幼稚園から高校までの「学習費総額」
「住宅」は、購入資金の平均
「老後」は、夫婦二人世帯の老後生活費 25 年分

出典：文部科学省「平成30年度子供の学習費調査の結果について」
国土交通省「平成30年度住宅市場動向調査」
生命保険文化センター「令和元年度 生活保障に関する調査」

人生の三大費用に備える。

人生に必要な費用の中で「子育て・教育」、「住宅」、「老後」が人生の三大費用と言われます。「子育て・教育」と「住宅」はイメージしやすく、「自分ごと化」して考えていると思います。子供を授ければ、その年齢から自動的に「いつ、いくら必要か」がある程度計算できます。また、住宅は家賃や住宅ローンの返済スケジュール（必要資金）で毎月の負担額がわかります。

後回しになるのが、「老後」の準備です。30〜40代の世代にとっては現在進行形の「子育て・教育」「住宅」が終わってからの課題だからです。しかし、人生100年時代は老後の費用がもっとも高額です。

一時「老後2000万円」問題が話題になりました。これは高齢世帯の家計の平均値から機械的に算出した老後資金の不足額です。しかし、現実には個人ごとに公的年金額や金融資産等が異なります。ぜひ、自分の場合の「老後〇〇万円問題」を計算し、「子育て・教育」「住宅」と合わせて資産形成の目標を決めてください。若い人には遠い未来の話ですが、簡単には準備できない金額です。

定年後 昔悠々 今窮々

こんなはずでは (第34回 2020年)

嫁さんが 給与を覗く目 半端ない

中途半端な夫 (第32回 2018年)

仕分け人 妻に比べりゃ まだ甘い

北の揺人 (第23回 2009年)

ボーナスの きまり手いつも 引落し

ヒガミニスト (第10回 1996年)

十万円 見る事もなく 妻のもの

はかなき夢 (第34回 2020年)

「5円」見て ビジネスバッグが エコバッグ

おつかいパパ (第34回 2020年)

「貯める」の基本は給与天引き貯金

メンタル・アカウンティング

「心の財布」、「心の会計」

(リチャード・セイラー博士：2017年ノーベル経済学賞受賞)

- 給与 - 貯蓄 ⇒ 使えるお金
- × 給与 - 使ったお金 ⇒ 貯蓄

「給与・貯蓄＝使えるお金」で「貯める」。

「貯める」は、今消費したいという感情を抑えて、将来のためにとっておくことです。そのためには「給与天引き（口座引落）貯金」がお薦めです。

お金に対する人間の非合理的な行動を研究する「行動経済学」の中に「メンタル・アカウンティング（心の財布）」の考え方があります。これは、人間はお金を心の財布ごとに区分し、その財布の範囲内で予算を立て、損得を判断するということです。例えば、同じ百万円のお金であっても、毎月苦勞して貯めた百万円と、宝くじが当たった百万円では心の財布が違うので使い方が異なるはずです。また、予算を明確にするとその範囲内で使う努力をします。「給与天引き」の仕組みは、お金を優先的に「貯蓄」の財布に入れ、「使つてはいけないお金」として区別するのです。

そして、貯蓄をした残りの「使えるお金」の範囲内で自分の価値観にあった賢い消費をすることになります。ここでのポイントは衝動買いや無駄使いの抑制ですが、これは、皆さんも失敗の心当たりがあると思います。

無駄遣い 言い訳いつも 「令和初」

ぽぷらー (第33回 2019年)

金利見て やっぱりやめて タンス行く

送りバント (第30回 2016年)

こづかいも マイナス金利と 妻が言う

すきま風 (第30回 2016年)

株上がり シミュレーションでは お金持ち

びばお (第31回 2017年)

円安が 年金暮らしに 矢を放つ

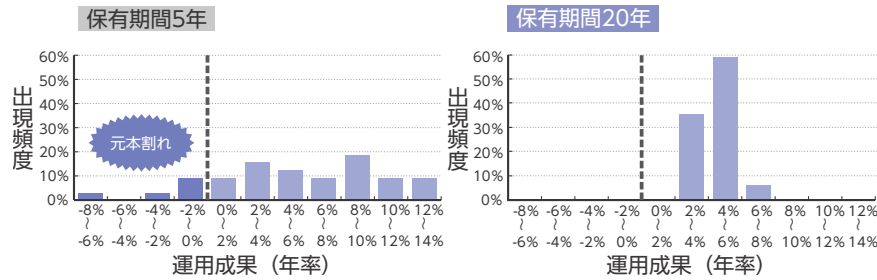
釈迦の弟子 (第28回 2014年)

ボーナスを 見下す妻の 株投資

宣茶 (第19回 2005年)

「長期・積立・分散」投資の効果

資産・地域を分散して積立投資を行った場合の運用成果の実績【保有期間別(5年、20年)】(*)



資産や地域を分散した積立投資を長期間続けることで、結果的に

元本割れする可能性が低くなる傾向

(*) 1985年から2020年の各年に、毎月同額ずつ国内外の株式・債券の買付けを行ったものです。各年の買付け後、保有期間が経過した時点での時価をもとに運用結果及び年率を算出しています。これは過去の実績をもとにした算出結果であり、将来の投資成果を予測・保証するものではありません。運用管理費は含みません。

出典：金融庁「つみたてNISA 早わかりガイドブック」

<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/guide/index.html>

「長期・積立・分散」は資産形成の基本です。

金利がほぼ0%の預貯金では資産はふえません。とすると、預貯金に加え、株式や外貨建て資産等に投資して「ふやす」を考える必要があります。この実践が「長期・積立・分散」による資産形成・投資です。これは、

- ・ 長期の時間を味方にした収益の安定化
 - ・ 投資時期の分散による価格変動リスクの平準化
 - ・ 資産分散による収益獲得と過度なリスクの回避
- 等を意図した手法で、マーケットの予想による売買ではなく、長期保有により収益を目指すものです。

ただ、「長期・積立・分散」の資産形成の基本は理解していても実践している人は少数派です。投資の知識不足やきっかけがなくて一歩が踏み出せない人が多いこと（現状維持バイアス）が要因だと思われまます。

政府は「iDeCo（個人型確定拠出年金）」や「つみたてNISA」等税制優遇のある制度でインセンティブをつけ、「長期・積立・分散」による投資を促進していますが、皆さんは検討したことがありますか。

読みきれぬ 妻の心と 円と株

ポチの父 (第26回 2012年)

一戸建 手が出る土地は 熊も出る

ヤドカリ (第4回 1990年)

バブル期に 使い果たした 金と知恵

モーレッツ社員 (第7回 1993年)

リストラで 冬のアナタと 妻がいう

北風 不職 (第18回 2004年)

一〇〇年に 一度の不況が 五年毎

窓際貴族 (第23回 2009年)

ゆとりでしょ？ そう言うあなたは バブルでしょ？

なおまる御前 (第30回 2016年)

日本の株式バブル相場・崩壊時の株価

	ピーク時の 日経平均株価	暴落時の 日経平均株価	下落率	備考
不動産バブル 崩壊	38,915円 (1989年12月29日)	14,309円 (1992年8月18日)	-63.2%	不良債権問題
ITバブル崩壊	20,833円 (2000年4月12日)	7,607円 (2003年4月28日)	-63.4%	金融危機
米住宅バブル 崩壊	18,261円 (2007年7月9日)	7,054円 (2009年3月10日)	-61.3%	リーマン危機、 欧州危機

「大きな失敗」のメカニズムは？

資産形成では、株式や外貨建て資産等マーケットで価格が変動する資産に投資します。そのため失敗（値下りによる損失）は必ずあります。これは投資の専門家でも同じです。ただ、「長期・積立・分散」の資産形成ができていれば、大きな失敗（損失）が発生する確率を低くできます。

バブル期の投資は、短期間に集中して多額のお金を不動産や株式等に投資したため、大きな失敗となりました。バブル期は多くの人が投資しているから価格が上昇し、その時点では儲かっています。人間には欲があり、多数派になりたいので、投資を後追いのする人がいます。また、値上がりしても欲張って売却しない人もいます。これらの要因も伴いマーケットが過熱（適正値を大幅に超える値上がりが発生）、その後暴落して大きな失敗になります。

また、長期投資より、ハラハラ・ドキドキ・ワクワクして、結果のすぐわかる短期売買を好む傾向があります。短期売買はギャンブル感覚で冷静な判断とならないケースがあり、損が膨らむことがあります。ギャンブル同様、依存症のリスクもあります。

次のような失敗も回避してください。

退職金 もらった瞬間 妻ドロロン

元自衛官 (第29回 2015年)

定年後 犬もいやがる 五度目の散歩

鉄人28号 (第17回 2003年)

スポーツジム 車で行って チャリをこぐ

あたまで健康追求男 (第31回 2017年)

病院へ 来ない仲間を 心配し

カープひろし (第32回 2018年)

趣味だった はずの手料理 今ノルマ

恐妻家 (第23回 2009年)

元気出る 魔法の言葉 「孫来るよ」

くれないしんちゃん (第29回 2015年)

幸福であるために必要なもの

(単位：%)

		健康の維持・管理や健康づくり	自由になるお金（金融資産）の確保	住まいの確保	趣味やライフワークの確保	家族関係の維持・改善	友人や知人との良好な関係づくり	生計維持のための収入・仕事の確保	やりがいのある仕事に就く	職業能力の維持・向上（学び直し、キャリアアップなど）
18～69歳		59.4	69.5	57.4	56.7	57.7	52.1	76.9	46.0	21.7
70代前半	男性	79.6	64.9	59.1	58.7	58.9	50.6	61.4	36.9	17.2
	女性	83.6	73.5	63.9	62.0	63.9	65.1	55.5	30.0	14.8
70代後半	男性	85.2	75.2	68.2	69.3	61.8	58.1	66.0	31.6	17.3
	女性	85.8	69.3	63.3	61.8	65.6	70.3	53.8	27.4	12.4

出典：第一生命経済研究所「人生100年時代の『幸せ戦略』」

お金を賢く、計画的に使って、楽しむ。
 資産形成の最終的な目標は、お金を賢く使って、セカンドライフを楽しむことだと思います。退職後は収入が減るので、消費・生活スタイルを調整しつつ楽しむことを考えます。また、お金が継続的に減っていくことに不安を感じる方もいます。そのような場合、各年齢までに「使う」お金、趣味・旅行のお金等、使うお金を明確に区分して、「計画的に使う」と決めると安心できます。

70代の人たちが思う「幸福であるために必要なもの」で最も多かったのは、「健康の維持・管理」で、続いて「自由になるお金の確保」「住まいの確保」「趣味やライフワークの確保」が上位でした。18～69歳よりも、健康の維持・増進、友人や趣味・ライフワークの必要性を感じている方が多いようです。

セカンドライフを楽しむためには、お金以外のことも準備が必要です。できるだけ早い時期から、健康的な生活習慣を身につけるとともに、趣味や生きがい、つながりも意識して、取り組む必要があると思います。

趣味探し 定年前の 大仕事

光男 (第32回 2018年)

財産は 無いが記念に 遺言状

厳格な男 (第17回 2003年)

どこに置く 保険・遺言 パスワード

悩み多き人間 (第29回 2015年)

遺産分け 初めて目にする ご親戚

WHO? (第17回 2003年)

退職金 いつのまにやら 妻名儀

無策な男 (第14回 2000年)

抱き上げた 孫が一言 密ですよ

白いカラス (第34回 2020年)

相続に関するルールの見直し

相続に関するルールが、2019年1月13日から段階的に見直されることになりました(2020年7月10日ですべて施行済)。高齢化の進展等の社会経済情勢の変化に対応するための大きな見直しになります。

■配偶者の居住の権利

亡くなられた方の配偶者がそれまで住んでいた建物に住み続けられやすくなるための方策が新設されます。

■遺言書保管法

法務局において自筆証書遺言を保管する制度が新設されます。

■預貯金の払戻制度

遺産分割の前でも亡くなられた方の預貯金を一部払い戻すことができるようになります。

■特別の寄与の制度

亡くなられた方の親族で療養看護等を行った方は、相続人に対し、その貢献に応じた金銭を請求することができるようになります。

■自筆証書遺言の方式緩和

自筆証書遺言を作成するときに、財産目録については手書きで作成する必要がなくなります。

出典：法務省作成チラシ「相続に関するルールが大きく変わります」より抜粋

自分で決めて「承継する」ことが理想です。
 マネーデザイナーは、「目標を決め、貯めて、ふやす。そしてそのお金を賢く使って、セカンドライフを楽しむ。最後に使いきれなかったお金・財産を次の世代に承継する。」が基本です。

「承継する」ポイントは、自分の意思で決め、遺言等で明確にしておくことです。「相続」が「争族」になるケースが見られます。その大きな要因は、故人が決めていなかったことによるものです。人生100年時代には、決めるに際しては加齢とともに認知症等で意思決定ができなくなる状況も想定して考える必要があります。

また、「配偶者の居住の権利」の導入等相続に関するルールが大きく変わっています。

ご夫婦の場合、平均値で考えると夫の死後、妻は約10年長生きする計算になります。となると妻の生活をどのように考えるのかも重要な課題です。

人生100年時代の承継は、家族も納得する形で、自分の責任として決めていただきたいと思います。「争族」回避は重要な仕事です。

わが遺産 おまえ達だと書いておく

賢父 (第22回 2008年)



村井 幸博 (むらい ゆきひろ)

第一生命経済研究所 上席講師・研究理事
日本証券アナリスト協会検定会員
日本FP協会認定CFP

<主な経歴>

1982年第一生命保険入社。1984年より、海外投融資業務に従事。その後、運用調査・企画、国内社債、デリバティブ、株式投資、ヘッジファンド投資業務等幅広いジャンルの資産運用業務を担当した後、保険商品開発等に携わる。2008年4月より、第一フロンティア生命で保険商品開発、資産運用、営業等に携わる。2019年7月より現職。資産運用、金融リテラシー等に関するセミナー、研修、講演を担当。

<書籍のご案内>

「幸せ」視点のライフデザイン

(著) 第一生命経済研究所

2021年10月発売予定 ◆ 東洋経済新報社刊



序 章	多様性を受け入れ、幸せを体感する ライフデザインに向けて
第1部	つながり
第1章	ニューノーマルと「つながり」
第2章	変化する、家族のあり方
第3章	余暇・交流の新しい形
第4章	多様な働き方と新しいつながり方
第2部	お金
第5章	「働きやすさ」から「働きがい」へ
第6章	「幸せ」視点から見た経済・家計
第3部	健康
第7章	体と心の健康づくり
第8章	ユニバーサル社会に向けて
特別企画	インタビュー 人生100年時代のwell-beingを考える
終 章	「幸せ」視点のライフデザイン

ゆきひろ

セミナーで「資産形成に成功するにはどうすればいいか？」という質問を受けます。確実に成功する手法はないのですが、私は迷わず「心と体のコンディションを整えること」と答えています。心と体のコンディションを整えれば、感情的にならずに冷静に判断する可能性が高まります。大きな失敗も回避できると思います。また、心と体のコンディションが悪いときは無理をしないことも重要です。このような時の判断は、後悔する可能性も高いからです。

金融マーケットや自分の人生を長期的に考えれば、資産形成・資産運用の継続を困難にするようないろいろなことが起こり続けると思います。そのような時でも、「お金」、「健康」、「生きがい（つながり）」のバランスを上手にとりながら、サラ川を楽しみむくらしいの心の余裕をもってほしいと思います。資産運用の「運用」という字は「『運』を用いる」と書きます。儲けた時も損をした時も「『運』を用いた」と思いつつ、マーケットの動きに一喜一憂することなく、長期的な視点で資産形成・資産運用を実践してほしいと思います。

そして、「お金」を自分の人生のために賢く使うこともお忘れなきよう。